

事例 生物多様性の保全と木材生産の両立に向けたモデル森林での取組

関東森林管理局では、生物多様性の指標となるオオタカの生息環境の維持・向上を図りつつ、木材の持続的な生産を行う先駆的な人工林施業の確立を目指すモデル森林を平成22年に設定しています。モデル森林では、オオタカが営巣木として利用できる高齢木が常時存在するよう長伐期施業を行うとともに、狩り場を確保するため小面積の皆伐を分散的に実施するなど計画的な森林整備を実施してきました。

平成27年度には、オオタカの繁殖状況などのモニタリングや行動圏解析、列状間伐実施箇所における鳥類出現調査などを行いました。調査の結果、オオタカの狩り場として望ましい空間の造成等が更に必要なことが確認されました。

(関東森林管理局)



場 所：群馬県安中市 あんなかし 増田山外国有林 ますだやまほか
説 明：写真は、オオタカモデル森林（右上）、スギの高齢木に営巣したオオタカの雛の様子（左）、発信器装着の様子（右下）です。